



おのまち

議会だより

171号

令和4年
8月10日発行



色とりどりの光輝くサマーイルミネーション(小野町文化公園)

定例会6月会議

5 ページ 常任委員会審査結果

7 ページ 要望書提出

8 ページ 町政を問う!5人が一般質問

14 ページ 議会活動トピックス

定例会6月会議

6月8日～13日

令和4年小野町議会定例会6月会議は、6月8日から13日まで6日間の日程で開かれました。

会議では、令和4年度一般会計補正予算、条例の制定及び一部改正など9件の町長提出議案と、議員提出議案3件が提出され、議案をすべて原案のとおり可決したほか、予算の繰越明許費繰越等3件の報告がありました。

また、5名の議員が一般質問を行い、町政各般にわたり町長の考えをいただきました。



▲本会議の様子

7691万7千円追加する補正予算を可決

一般会計の歳入歳出それぞれ7691万7千円増額し、総額57億2991万7千円とするものです。

【主な補正内容】

◆歳入

項 目	補正額
新型コロナウイルス感染症対応 地方創生臨時交付金(増額)	5538万円
新型コロナウイルスワクチン接種 対策費負担金	980万円
新型コロナウイルスワクチン接種 体制確保事業費補助金	281万円
経済対策世帯給付金給付事業費 補助金	1500万円
経済対策世帯給付金給付事務費 補助金	74万円
子育て世帯生活支援特別給付金 給付事業費補助金	667万円
令和4年福島県沖地震による 被災住宅修理支援補助金	274万円
繰入金	▲1109万円
町債	▲520万円

◆歳出

※1万円未満切り捨て

項 目	補正額
経済対策給付金等事業	1649万円
子育て世帯生活支援特別給付金 給付事業	672万円
新型コロナウイルスワクチン接種 対策事業	1321万円
小野町応援商品券支給事業 (商工会委託)	2966万円
小野町応援商品券支給事業 (郵便局委託)	298万円
小野公園浄化槽改修設計業務 委託料	250万円
令和4年福島県沖地震による 被災住宅修理支援金	350万円
小学校給食費一部助成金	24万円
中学校給食費一部助成金	129万円

条例の一部改正

条例4件が一部改正されました。主な内容は次のとおりです。

◆小野町税条例を一部改正

地方税法等の一部改正により所要の改正を行うものです。

① 上場株式等に係る配当所得等についての課税方式を所得税と一致させることとするほか、上場株式等の譲渡損失の損益通算及び繰越控除についての適用要件を所得税と一致させる。

② 住宅借入金等特別税額控除について、地方税法の改正により適用期限を令和20年度(改正前は令和15年度)分の町民税及び居住年が令和7年であるものまで延長する。



◆小野町税特別措置条例を一部改正

租税特別措置法の一部が改正されたことに伴い、所用の改正を行ったものです。

◆小野町国民健康保険税条例を一部改正

国民健康保険法施行令の一部改正に伴い、賦課限度額のうち医療給付費分を63万円から65万円、後期高齢者医療支援金分を19万円から20万円に引き上げる改正を行うもので、公布の日から施行し、令和4年度から適用するものです。

◆小野町笑顔とがんばり子育て応援条例を一部改正

「笑顔とがんばり子育て応援事業」の見直しに伴い、応援金の支給額を改正するものです。支給額が減額となるため令和4年度を周知期間とし、令和5年度より適用するものです。



契約締結

請負契約の予定価格が5000万円以上の契約案件については次の4件となります。

◆小野町火葬場「おの悠苑」空調設備改修工事請負契約の締結

契約先 株式会社 大和田工務店
契約額 50,270,000円

◆幼児教育施設園舎

(旧中央さくら保育園・旧小野わかば幼稚園)解体工事請負契約の締結

契約先 飯岡工業株式会社
契約額 70,950,000円

◆百目木・堀切線道路拡幅工事請負契約の締結

契約先 株式会社 吉田土建
契約額 78,100,000円

◆小野小学校グラウンド法面復旧工事請負契約の締結

契約先 株式会社 高橋建設
契約額 56,100,000円

報告事項

予算の繰越明許費繰越等について、町長から報告がありました。

○令和3年度小野町一般会計予算繰越明許費繰越の報告について

外2件

議員提出議案

3件の議員提出議案を可決しました。

◆議員派遣について

小野町議会会議規則第127条第1項により、議案の審査又は町の事務調査などのため議員を県内外に派遣することについて提案したものです。

議案提出者：先崎 勝馬 議員



▲議員提出議案 先崎勝馬議員



▲議員提出議案 會田百合子議員



▲議員提出議案 宗像芳男議員

◆意見書の提出

○被災児童生徒就学支援等事業」の継続と被災児童生徒の十分な就学支援を求める意見書

議案提出者：會田 百合子 議員

意見書提出先：復興大臣、総務大臣、財務大臣、文部科学大臣

○地方財政の充実・強化を求める意見書

議案提出者：宗像 芳男 議員

意見書提出先：内閣総理大臣、内閣官房長官、総務大臣、財務大臣、内閣府特命担当大臣（地方創生規制改革担当）内閣府特命担当大臣（経済財政政策担当）

ここが聞きたい 質疑 常任委員会審査

予算決算常任委員会

健康福祉課

問

経済対策給付金事業について、町内の非課税者が町外の課税者に扶養されている場合でも支給の対象となるのか。

答 対象とならない。

問

ワクチン接種に係る交通弱者に対する交通手段を支援することについての周知方法は。

答 コールセンターで事業活用について確認する。また、利用実績がある方を把握しており、事前にタクシー利用券を送付する。

地域整備課

問

小野公園の多目的トイレの浄化槽について来年度早々からの供用を見込んでいるようだが、どの程度の整備費用がかかるのか。

答 96人槽と大きいものであり、3000万円から4000万円程度と見込んでいる。小野小学校と同程度の人槽である。

厚生産業常任委員会

子育て支援課

令和3年度の出生者数は。

答 応援金の実績に基づく、第1子16名、第2子10名、第3子7名の合計33名である。

問

これまでに応援金の交付を受けた子どもで、小学生まで小野町に居住していた子供の人数は。

答 調査実績はないが、両親とも町外に勤務しているが、小野町で3人目まで出産した方もおり、応援金の影響はあると思われる。

問

交付金を支給したままにせずに、人口対策のためにどのような子どもの居住の情報を管理していくのか。

答 成長の各ステージで支援策を講じるため、その都度情報の把握、紐づけをして管理していきたい。

問

栄養費の助成は、子育て応援条例の改正前に応援金を受領した人も対象となるのか。

答 この助成は、認定こども園において主食費として生じる費用を軽減するために設けた。

認定こども園以外に通園する児童も対象であり、すべての児童に対して当該相当分の費用を支給するものである。

問

小野町笑顔とがんばり子育て応援条例を改正するにあたって見込める効果は。

答 子育ての支援体制を充実させ、小野町で産んで、小野町で育ててもらうことで少子化対策を図るものである。



審議した議案と各議員の賛否

- ・賛成が「○」、反対は「×」と表示します。
- ・田村弘文議長は採決に加わりません。
- ・渡邊議員は6月会議の最終日欠席により、最終日の議案の採決には加わっておりません。

会議名	提出区分	議案名	可否	會田貞子	中野孝一	緑川久子	先崎勝馬	渡邊直忠	会田明生	吉田康市	宗像芳男	水野正廣	久野峻	竹川里志
定例会6月会議	町長	令和4年度小野町一般会計補正予算(第1号)	可決	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○
		小野町税条例等の一部を改正する条例について	可決	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○
		小野町税特別措置条例の一部を改正する条例について	可決	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○
		小野町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について	可決	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○
		小野町笑顔とがんばり子育て応援条例の一部を改正する条例について	可決	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○
		小野町火葬場「おの悠苑」空調設備改修工事請負契約の締結について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		幼児教育施設園舎(旧中央さくら保育園・旧小野わかば幼稚園)解体工事請負契約の締結について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		百目木・堀切線道路拡幅工事請負契約の締結について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		小野小学校グラウンド法面復旧工事請負契約の締結について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	議員	議員派遣について	可決	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○
		「被災児童生徒就学支援事業」の継続と被災児童生徒の十分な就学支援を求める意見書	可決	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○
		地方財政の充実・強化を求める意見書について	可決	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○

※提出区分欄の「町長」は町長提出議案、「議員」は議員提出議案を示します。

※個々の議案名は小野町議会のホームページに掲載します「会議録」をご覧ください。

福島県町村議会議長会へ要望書を提出

6月3日開催の令和4年度福島県町村議会議長会定期総会において、令和4年度の提出議題を各地方町村議会議長会より提案いたしました。

田村地方町村議会議長会からは

「三春病院、公立小野町地方総合病院の常勤医師の確保」

「福島県立高等学校改革後期実施計画について」

の2件の要望が小野町議会田村議長（田村地方町村議会会長）より提案され、承認されました。



提案する田村地方町村議会議長会 田村会長

常勤医師の確保について

田村地方町村議会議長会提出

提案理由説明者 小野町議会議長 田村弘文

田村地方の住民の健康・安全安心の暮らしのため、下記病院への常勤医師の確保を強く要望する。

記

◆公立小野町地方総合病院への常勤医師の確保に対する支援について

公立小野町地方総合病院は、小野町、田村市、平田村、川内村及びいわき市の5市町村で構成する「公立小野町地方総合病院企業団」が運営する公立病院である。急速に過疎高齢化が進む阿武隈中部地域、田村地域の中核病院として119床を有し、内科、整形外科などを始め、地域に不足する眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、精神科など13科の外来診療、人工透析治療、新型コロナウイルス感染症への対応などのほか、訪問診療や訪問看護などの在宅医療支援、老人福祉施設、介護サービス事業所との連携など、地域住民の安心できる地域医療を支える重要な役割を担っている。

地域医療の維持・充実を図るためには医師の確保が最も重要な課題であるが、医師の地域的偏在による医師人材の不足が当地方でも常態化しており、当院に勤務する2名の常勤医師は病棟管理、外来診療、訪問診療、当直業務に加え、新型コロナウイルス感染症への対応として、PCR検査業務も行っており、当該2名の常勤医師に係る負担は極めて過重になっている。また、田村地域の救急医療体制については、24時間体制の診療体制が十分に確保されていないため、救急搬送の約8割を郡山市内の医療機関に依存している状況である。

高齢化が進む小野町民並びに近隣住民が、住み慣れた地元で継続して生活できる医療体制を確保するには、在宅医療の充実や24時間の救急診療体制の整備に加え、新型コロナウイルス感染症に係る診療体制など、常勤医師の増員が必要不可欠で大変重要である。

については、公立小野町地方総合病院への常勤医師の派遣について協力的な支援を強く要望する。

町政を問う

※紙面の関係上、「◆」の質問と答弁の内容のみ要約して掲載しています。
掲載されていない質問項目の内容等は、小野町議会のホームページに掲載します。
「会議録」をご覧ください。（8月下旬掲載予定）

会田 明生 議員 8ページ

- 1 産業振興について
 - ・農業振興について
- 2 住宅支援について
 - ◆ ・定住促進住宅について
- 3 小野町まち・ひと・しごと創生総合戦略について
 - ◆ ・人口ビジョンについて

渡邊 直忠 議員 9ページ

- 1 持続可能なまちづくりイコール人口増について
 - ・持続可能な小野町まちづくりについて
 - ・人口増政策課設置について
 - ・人口減少に対して国が行っている支援策の活用について
 - ・人口増のための小野町独自具体策について
- ◆ ・小野町立日本語学校設立について
 - ・私立学校誘致について
 - ・少子化対策の抜本強化策について
 - ・過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法の活用について
 - ・総務省地域力創造施策について
- ◆ ・農林業振興による人口増について
 - ・人口減少・少子高齢化対策について

竹川 里志 議員 10ページ

- 1 教育行政について
 - ・スクールバス運行について
- ◆ ・少子化による教育環境について
 - ・主権者教育について
 - ・ヤングケアラーについて
- 2 インフラ整備について
 - ・住みよい生活道路環境について
- 3 一般行政について
 - ◆ ・DX（デジタルトランスフォーメーション）推進事業について

先崎 勝馬 議員 11ページ

- 1 企業誘致について
 - ◆ ・企業誘致に対する町の姿勢について
- 2 笑顔とがんばり子育て応援事業について
 - ◆ ・子育て環境の充実について

緑川 久子 議員 12ページ

- ◆ 1 役場庁舎建設の基本構想について
 - ・新庁舎の機能（複合化）・規模・建設場所（候補地の選定）について
- 2 今年度第2子以降の小・中学生の給食費の無償化の実施について
 - ◆ ・第1子の給食費の助成について





会田 明生 議員



定住促進住宅について



補助金や支援策を強化し 住宅支援策を検討する

問 小野町の定住支援の一つに、子育て世帯・若者単身者・町内事業者の従業員の居住支援を目的とした「小野町交流・定住支援館」があります。

定住支援策の一つとして、より子育てしやすい環境の住宅や、高齢者が安心して生活できるような住宅の整備が必要ではないでしょうか。

町長 多様化する子育て世帯のニーズへの対応や子育てしやすい環境の住宅整備は、若者の定住促進や人口減少対策の一つとして認識しています。



人口ビジョンについて



様々な角度から 検討を行う

今年度より、移住定住の促進と地域の活性化を図るため「来て おのまち住宅取得支援事業」を創設し、町内在住で39歳以下の世帯及び県内・県外からの移住者の新築、または中古住宅取得に対する補助金の交付や「つどつておのまち」での空き家情報の発信等、定住、子育てに関する支援を強化しています。

今年度策定する小野町公営住宅等長寿命化計画において既存住宅の改修や新たな町営住宅の必要性等の整理を行うとともに、定住促進に向けた子育てしやすい環境の住宅や高齢の方が安心して生活できる住宅支援策を、総合的に検討してまいります。

また、その他の町営住宅についても、安価な家賃設定により、若い世帯も入居し、子育て住宅としての役割も担っているものと考えております。

高齢化が進む中においては、関係各課横断的に高齢者の課題やニーズ



問 小野町まち・ひと・しごと創生総合戦略では、人口減少の抑制と長期的に持続可能なまちづくりにより、2060年の人口目標は6,554人以上を目指すとしています。

人口ビジョン達成のためには、大胆な施策の見直しが必要ではないでしょうか。

町長 人口については、予想を上回る速度で減少が進んでいることに大変危機感を募らせているところです。

持続可能なまちづくりを進めていくためには、2060年において人口が6,554人以上となるよう、総合計画に盛り込む施策や事業の内容について、検証結果に基づき見直しを図っていくとともに、職員一人ひとりがどうすれば人口の減少を抑制することができ、様々な角度から検討を行うよう指示しております。

また、町民の皆さんにもまちづくりについて、

アンケートやワークショップを通して参画していただく機会を設けさせていただく等、自分事として積極的に関わっていただきたいと願っております。

再質問

大胆な施策の見直しをしていくためにも、職員一人ひとりが考えることが大事だとありましたが、そのような組織にしていくなかで何をしなければならぬと感じていますか。

町長

少しでも子供が誕生しやすい環境づくりをしっかりと進めていくことを、職員も町民の皆さんにも十分ご理解をいただき、施策をみんなで進めていかなければいけないと感じております。

職員は、それぞれの課、それぞれの担当で様々な課題をしっかりと検討し、今後においてもこの危機を共有しながら、施策を進めていきたいと考えております。

問

小野町立日本語学校設立について

答

日本語を外国人に教えるという施策は参考になりたい



渡邊 直忠 議員

問 北海道東川町立日本語学校は2015年の開校から、7年間で2千名を超す留学生が来町しており、年間事業費の8割は国からの特別交付税を活用しています。

また、日本語学校を活用して、近隣自治体と協力しながら介護人材育成を実施しており、小野町でも近隣自治体及び医療機関等と協力しながら医療人材育成を実施すべきと思いますが、町長の見解をお伺いします。

町長 東川町の日本語学校は、廃校跡地を利用して様々な外国人を呼んで、日本語を覚えていただいで近隣の市町村に就職をする、そういう構造だったと

問

農林業振興による人口増について

答

農林業振興となる有機物リサイクルセンター導入は困難

問 町は環境への取り組みとして、有機物リサイクルセンターを中心とした資源

源循環型まちづくりを指すべきです。環境保全型農業の推進、

思います。

小野町では、160人ぐらいの外国人が企業で働いておられますので、日本語を外国人に教えていく、そういう施策は参考にしたいと思っています。

再質問

宮城県は日本語学校開校を検討しており、本年300万円の調査費を計上し、官民連携や市町村主体など運営の仕組みの検討に入ります。

小野町も日本語学校設立に向けた調査事業を実施すべきだと思います。併せて財源確保等、町の職員研修も実施すべきと思いますが、町長の見解をお伺いします。

町長

町では、職場での研修に加えて、県や自治研修センターへの派遣、人事交流などの外部研修を行うとともに、先進事例の視察も行っております。

引き続き業務遂行に必要なスキル向上のため、機会を捉えて先進事例の視察など外部研修を活用し、有為な人材の育成に努めてまいりたいと考えております。

また、日本語学校については、かなりハードルが高くと認識しておりますが、良好な施策と考えておりますので、調査研究をしてまいりたいと考えております。

農産物の高付加価値の確立、森林保全の推進、ごみリサイクル強化などにより新しい産業の創出等による起業、働く場所の提供により人口増につながるべきであると思いますが、町長の見解をお伺いします。

町長

現在、町では循環型農業を推進するため、耕畜連携事業に取り組んでおります。町内畜産農家から堆肥を購入する農家に対し、購入費用の一部助成を行っております。

ご提案の有機物リサイクルセンターは、農林業振興と新たな産業の創出による人口減少対策の一つとしては有効であると考えます。

しかしながら、その先進事例を見ましても、多額の事業費と町負担を伴うことにつながる上に、本町における堆肥の需給バランスを考えた場合、現状の農家規模での施設導入は困難であると考えます。

再質問

農業問題は大事な話だと思います。

有機物リサイクルセンターで作った優良な肥料たい肥等を、皆さんに提供することによって、農家がそれを活用する、それをするためにも町は有機物リサイクルセンターを造り活用を促す、これは町の大きな農業施策の一つだと思いますので、もう一度発言をお願いいたします。

町長

畜産農家、酪農家から出る堆肥については、それぞれの農家が有機化してそれぞれの農家に配布している状況です。そのために町はトン当たり2,000円を上限として補助をしています。

有機リサイクルセンターを造っても、全体的に活用する農家数は限られると思っておりますので、この件に関しましては、今の酪農家、畜産農家の対応で賄えるのではないかと考えておりますし、導入には、かなりの財源が必要と考えておりますので、ご理解をいただければと思います。



竹川 里志 議員



少子化による教育環境について



格差のない教育活動や文化や芸術に触れる機会を設ける

問 少子化の進行により都市部と地方の地域を取り巻く環境が変化している中、子どもたちに教育格差のない最良の教育環境を提供することが、これからますます求められていきます。町の文化、芸術を活かした教育環境の整備をどう進めていくのかお伺いします。

答 学校教育においては、ICT教育や、英語指導手の配置、語学・文化体験研修などを通して、格差のない教育活動を展開しております。加えて多様な情報に触れられるようにするために、公民館を中心に数多くの事業を展開しております。

教育長 少子化に伴う学びの環境には一定の課題があり、それを是正すべく小学校・中学校の統合を進め、教育環境を整備してまいりました。

学校教育においては、ICT教育や、英語指導手の配置、語学・文化体験研修などを通して、格差のない教育活動を展開しております。加えて多様な情報に触れられるようにするために、公民館を中心に数多くの事業を展開しております。



DX(デジタルトランスフォーメーション)推進事業について



住民票等のコンビニ交付、マイナンバーカードの普及促進等に努める

問 自治体DX(デジタルトランスフォーメーション)は、デジタル技術やあらゆるデータを活用し、行政の業務効率化や行政サービスの改善を進めながら、町民の利便性向上を目指す取り組みですが、小野町のDX推進事業の取り組みの内容をお伺いします。

町長 今年度、町民の皆様の利便性向上や業務の効率化を図るため、DX推進計画を策定する予定であります。

いマイナンバーカードの普及促進にも努めてまいります。

DX推進のためには、全職員がDXの必要性について認識を深め、施策を戦略的に効果的に推進していく必要がある。職員研修などを実施し、人材の育成に努めてまいります。

また、具体的な事業として、住民票等のコンビニ交付や行政手続のオンライン化を進めますとともに、これらの事業に欠かせな

まいります。



問

企業誘致に対する町の姿勢について

答

交通の利便性を生かし企業誘致を進める



先崎 勝馬 議員

問 最近、町のホームページ等でも、企業誘致に対する記載が見当たりません。工業用地には空き地が存在しており、断続的なアプローチが必要と考えられます。企業誘致推進の考えをお尋ねいたします。

町長 町では、工業用地を整備し、多くの雇用を生む製造業を中心とした企業の誘致に取り組み、平成26年には鶴庭工業用地に株式会社三宝製作所、株式会社アブクマの2社を誘致いたしました。

ました。現在は新たな工業用地は整備せず、廃校敷地などの町有地や企業撤退による空き工場を福島県企業立地ガイドで紹介するなど、福島県との連携により誘致活動を行っております。

今後は交通の利便性を生かし、立地を希望する企業のニーズに合わせたオーダーメイド方式により敷地の整備を行い、特に若者に魅力ある仕事を創出し、人流を呼び込むなど、持続可能なまちづくりに向け企業誘致を進めてまいります。

問

子育て環境の充実について

答

安心して子供を産み育てることができる環境づくりを更に進める

問 笑顔とがんばり子育て応援事業の見直しにより、子育て世代への経済的負担の軽減が見込まれますが、親同士の交流憩いの場の充実、相談業務の強化等、安心して子育てできる環境づくりにも必要ではないでしょうか。

町長 子育て世代を取り巻く環境が大きく変化している中、安心して子供を産み育てることができる環境づくりのためには、子育て世代への経済的、心理的、身体的な支援が必要であると認識しております。今年度は、笑顔と

んぱり子育て応援事業の全体的な見直しを行い、小学校就学前の3年間、栄養費の助成を行うほか、小中学校の入学祝い金を支給するなど、1人当たりの支給総額を拡充することとしております。

また、乳児家庭全戸訪問事業や産後ケア事業、臨床心理士等による育児相談支援事業に加え、新たに保健師や保育士が育児用品等の配布を行いながら、児童虐待予防や早期発見を図る事業も行っております。さらに、子育て中の親子の交流や育児相談を行う地域子育て

支援拠点事業につきましては、旧夏井おおすぎ保育園である子育て世代包括支援センター分館を事業の実施場所に加え、保健師や保育士などの専門職による相談体制の強化、子育てサポートや子育てボランティアなどの多様な人材を活用した親子の教室の開催など、地域の子育て支援機能の充実を図っております。

なお、今年度から、おのまち認定こども園においても同様の事業を実施しております。今後も妊娠、出産、子育ての各段階において、より効果的な切れ目のない支援策を実施し、安心して子供を産み育てることができる環境づくりをさらに進めてまいります。



緑川 久子 議員



新庁舎の機能(複合化)・規模・ 建設場所(候補地の選定)について



保健センター機能や災害対応拠点を備えた 複合施設として、新たな候補地も含め検討する

問 築62年が経過している役場庁舎の建設は、町民にとっても関心が高く、喫緊の重要課題です。新庁舎の構想について、機能(複合化)・規模・理念、それに伴う建設場所(候補地の選定)など、町の方針を伺います。

町長 役場庁舎建設は、町の総合計画の主要プロジェクトとして位置づけており、重要な事業と認識しております。

昨年度は役場内に小野町公共施設等整備方針検討会議を設置し、今後提供すべき行政サービスの見据え、将来世代の意見も参考にしながら、多角的な視点を加え

て検討を重ねてまいりました。小野町公共施設等整備方針におきましては、庁舎建設の基本理念を「町民の安全・安心の拠点となり、持続可能な行政サービスを提供する庁舎」と定め、災害に強く安全・安心な暮らしを支える庁舎、町民に親しまれ誰もが利用しやすい庁舎、経済性に配慮した庁舎、環境に優しく、町と調和した庁舎として四つの基本方針を掲げております。

また、全ての町民が生涯にわたり心身ともに健やかで心豊かに暮らすことのできるまちづくりの実現に資するため、保健センター機能や大規模自然災害に備えた災害対応拠点機能を持たせた複合施設の整備が必要と整理しているところであります。

建設候補地は、これまで5か所を選定し検討してまいりましたが、保健センター機能を備え

た庁舎の拡張や、災害対応拠点機能の強化に伴い、これら機能を満たす場所の見直しが必要となったことから、新たな候補地も含め検討することといたしております。

今年度は、新庁舎の導入機能や庁舎規模のほか、建設候補地、建設スケジュール等を具体化するため、庁舎建設の基本計画を策定することとしておりますので、引き続き庁舎建設に向けて全職員を挙げて検討を進めてまいります。

再質問

新庁舎の建設場所・候補地の選定で、以前選定した5か所の他にも今後候補地として適している場所が出て来た場合、新たな候補地として再検討する考えはありますか。

町長

建設候補地の基本的な考え方について、様々な視点を加え検討した結果、新庁舎は保健



第1子の給食費の 助成について



先行事例の調査を 行いながら検討を進める

問 町は今年度から学校給食費を小・中学生の第2子以降から無償化としました。

経済的負担を軽減する給食費助成の取り組みは、子育て世代にとっては心強い支援策であり、第1子の児童・生徒についても助成対象として検討してはどうでしょうか。

町長

学校給食費は、学校給食法第11条の規定により、施設整備費、修繕費、職員の人件費は町が負担しており、それ以外の食材料費については、保護者の負担としております。

今年度から子育てしやすい環境を充実させるため、多子世帯学校給食費負担軽減事業を開始したところであり、第1子の学校給食費の助成については、今年度開始した事業の検証や、近隣市町村の先行事例の調査を行いながら、町と教育委員会連携を図り、検討を進めたいと思います。

議会活動トピックス

田村地方議長会功労者表彰

4月14日に開催された田村地方町村議会議長会定期総会において、田村弘文議長、竹川里志副議長、吉田康市議員、宗像芳男議員、会田明生議員が自治功労者表彰を受け、定例会6月会議において表彰状の伝達が行われました。

自治功労者表彰は10年以上在職し、地方自治の振興発展が認められた方に授与されるものです。



田村弘文議長



竹川里志副議長



宗像芳男議員



吉田康市議員



会田明生議員



謝辞(竹川副議長)

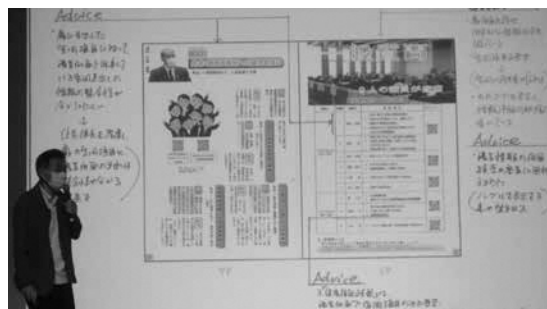
議員広報研修会

6月30日、広報編集委員会は福島県町村議会議長会主催の広報研修会に参加しました。

「広報紙の広報力を高めるために」の講義と広報クリニックの研修会が行われました。編集を行う際のポイントに注意し、読者目線の広報紙作成に取り組んで参ります。



3年ぶりに開催の広報研修会



広報クリニックの様子

議会活動日誌

5月

- 9日 福島県町村議会議長会 理事・監事合同会議（福島市）
- 10日 月例全員協議会／議会広報編集委員会
- 11日 旭日双光章受賞報告（前小野町長）
- 13日 都市計画審議会
- 16日 県南地方町村議会議長会連絡協議会 決算監査（石川町）
令和4年度県南地方町村議会議長会連絡協議会 総会（石川町）
- 17日 小野町商工会第63回通常総代会
- 18日 田村広域行政組合議会世話人会・全員協議会・臨時会（三春町）
- 22日 高柴山山開き安全祈願祭
- 24日 小野町異業種交流会第35回定期総会
- 25日 例月出納検査
- 29日 第36回県中支部ゲートボール大会
- 30日 全国町村議会正・副議長研修会（東京都）
- 31日 令和4年度小野町観光協会総会

6月

- 1日 小野町水防協議会／郡山法人会小野支部報告会
- 2日 議会運営委員会／全員協議会
- 3日 福島県町村議会議長会理事・監事合同会議、定期総会（福島市）
- 4日 矢大臣山山開き安全祈願祭
- 8日～13日 定例会6月会議
- 13日 月例全員協議会
- 14日 小野町シルバー人材センター定時総会
- 19日 第18回福島県消防協会田村支部幹部大会（三春町）
- 23日 令和4年度田村地区防犯協会連合会総会（田村市）
- 24日 例月出納検査
- 28日 田村広域行政組合議会全員協議会（三春町）
- 30日 町村議会広報研修会（福島市）

7月

- 5日 小野町交通安全対策協議会／小野町青少年育成町民会議
- 7日 右支夏井川筋河川改修事業要望活動（福島市）
小野高等学校存続要望活動（福島市）
令和4年公立小野町地方総合病院企業団議会第2回定例会
- 11日 月例全員協議会
- 12日 郡山地方広域消防組合議会議会運営委員会・臨時会（郡山市）
- 15日 更生保護女性会「朝のあいさつ運動」
小野高等学校の統合等に関する住民説明会
- 19日 消防操法大会激励
- 23日 2022サマーイルミネーション点灯式
- 25日 例月出納検査
- 25日～27日 監査決算審査
- 29日 正副会長会議及び理事・監事合同会議（福島市）
定期総会決議に基づく県への要望活動（福島市）
田村広域行政組合 議会運営委員会・全員協議会・臨時会（三春町）

議会からのお願い

議会だよりの取材のため、腕章をつけた広報編集委員会の委員が、お伺いしますので、ご理解・ご協力をお願いします。

議会からのお知らせ

定例会9月会議は

9月1日(木)から開会します。

一般質問は9月2日(金)の予定です。

- 新型コロナウイルス感染症対策として議場の傍聴席の間隔を広げるため、座席数に限りがありますので、ご理解とご協力をお願いします。

※詳しくは小野町議会事務局までお問い合わせください。(0247-72-6930)

令和4年
8月10日発行

171号

発行者／福島県小野町議会
編集／議会広報編集委員会

〒963-3492
福島県田村郡小野町大字小野新町字館廻92

☎0247-72-6930

QRコードから
アクセス
してください



より多くの皆さんに「おのまち議会だより」をお届けできるよう、スマートフォン用無料広報誌アプリ「マチイロ」で配信をしています。ぜひご覧ください。

スマホ用アプリ
マチイロで配信しています！

議員の訃報

去る令和4年7月5日、渡邊直忠議員が逝去されました。



渡邊議員は、平成28年に初当選し2期6年余り小野町議会議員として活躍され、その間、厚生産業常任委員会をはじめ各委員会に所属、2期目となる令和2年からは町の議会運営委員長や田村広域行政組合の議会運営委員長などの要職を歴任され、本町の発展に多大なるご貢献をされました。
謹んで故人のご冥福をお祈り申し上げます。

小野町議会

【小野町議会広報編集委員会】

委員長	田村 弘文
副委員長	竹川 里志
委員	宗像 芳男
委員	会田 明生
委員	先崎 勝馬
委員	緑川 久子
委員	中野 孝一
委員	會田 百合子

小野町議会広報編集委員会委員
会田 明生

「昭和の歌姫」といえば、美空ひばりさんを思い浮かべる方も多いのでは。
美空ひばりさんの伝説のコンサートと言われるのが、病からの復活をかけた東京ドームでのコンサートですね。
7月5日に急逝された、渡邊直忠議員の本年定例会6月会議の一般質問は、美空ひばりさんの伝説のコンサートの様に感じます。
小野町をいかに良くするか、元気にしていくか。60分の持ち時間をフルに使った質問は、唯一無二の存在でした。
在りし日の活躍、ご功績に敬意を表しますとともに、心からご冥福をお祈りいたします。

・あどがき・



この印刷物は、FSC®の基準に従って
認証された適切に管理された森からの
木材を含んだ用紙で印刷されています。

小野町議会

検索

小野町議会のホームページも
ご覧ください